

ミニレクチャの舞台裏

東京大学 大学総合教育研究センター
特任研究員 吉田 壘

2015年6月26日
東京大学 総合図書館

目次

- 目的と目標
- ミニレクチャの設計と実施
 - 構成（導入、展開、まとめ）
 - アクティブラーニング（AL）の手法
- ミニレクチャプログラムの構成
- ワークの変遷
 - 最初の設計
 - 本番の設計
- まとめ

目的と目標

- 目的

- 受けたミニレクチャを授業設計の視点で振り返ることで、主体的に学んでもらう手法・コツを理解する

- 目標

- ミニレクチャの設計を説明できる
- 主体的に学んでもらうための手法・コツを説明できる

ミニレクチャの設計と実施 ～構成～

| 時間配分 | 構成 | 構成の概要*1 | 内容 |
|------|------------|---|----|
| 5分 | 導入 | <ul style="list-style-type: none">・ 学習者の注意を喚起する・ 学習目標を知らせる・ 前提条件を確認する (授業: 前回の復習) | |
| 45分 | 展開 | <ul style="list-style-type: none">・ 新しい事項を提示する・ 学習の指針を与える・ 練習の機会を設ける・ フィードバックをする | |
| 10分 | まとめ | <ul style="list-style-type: none">・ 学習の成果を評価する・ 学習の保持と転移を促す | |

ミニレクチャの設計と実施 ～AL手法①～

- 問いかけ

- 質問を投げかける

- 対象: 個人、グループ、全員
- 種類: クローズド、オープン
- 方法: 挙手、グー・チョキ・パー、説明

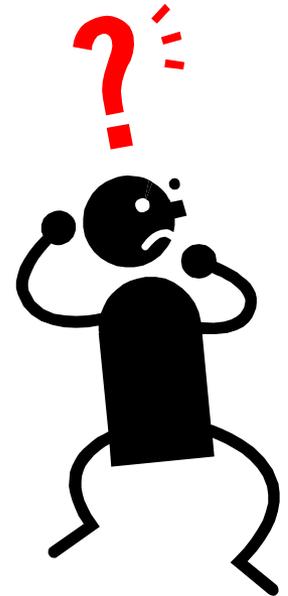
- ミニレクチャの講義部分で利用

【形態】 1人, ペア, グループ, 全体

【時間】 ~ 5分, 15分, 30分, 60分~

【構成】 単純, 複雑

【大人数講義】 ☆ ☆ ☆



ミニレクチャの設計と実施 ～AL手法②～

- Think Pair Share

- テーマについて一人で考えて、ペアで共有する
(Think) (Pair Share)

- ミニレクチャのワーク部分で利用

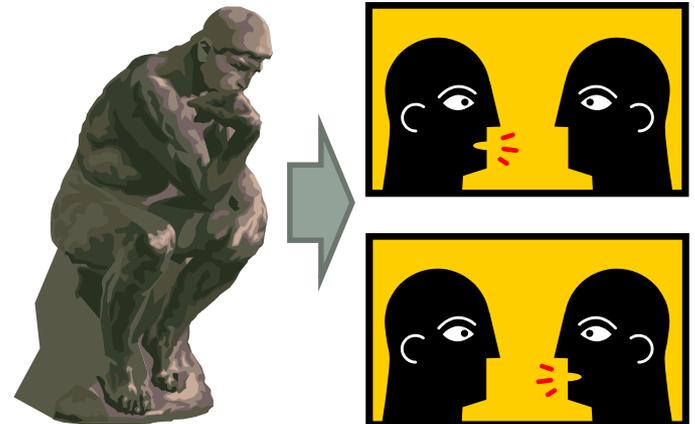
- 今回の場合、グループ・全体で共有していた

【形態】 1人, ペア, グループ, 全体

【時間】 ~ 5分, 15分, 30分, 60分~

【構成】 単純, 複雑

【大人数講義】 ☆ ☆ ☆



ミニレクチャの設計と実施 ～大事なこと～

目的

ミニレクチャプログラムの構成

事前勉強会 (2回実施)

模擬授業
ディスカッション



ミニレクチャ イベント

ミニレクチャ
授業デザイン講義
院生インタビュー

・ミニレクチャの質を保証するため実施

【内容 (2時間)】

45分間 模擬授業

75分間 ディスカッション

【参加者】

- ・FFP 担当教員、修了生
- ・ACS、図書館 教職員



*第1回 東大院生によるミニレクチャの勉強会の様子

ワークの変遷 ～最初の設計～

- 設計

- 個人ワーク

- 図書館にあったら良いサービスとその理由を考える

- グループワーク

- 事業の名前、内容、必要性を議論する

- 問題点

- ワーク/ミニレクチャの目的が明確に伝えられていなかった

- ワークが CB にフォーカスされていなかった

- ワークと講義内容が対応づいていなかった

- 結果として、CB ではない事業が出てきてしまった

ワークの変遷 ～本番の設計～

- 設計

- 個人ワーク

- コミュニティの課題を考える（例も併記）
 - 課題を解決する図書館サービスを考える

- グループワーク

- 事業の名前を考える
 - 事業を CB の構成要素で考える
 - 地域性、市民性、事業性、変革性

- 改善点

- ワーク/ミニレクチャの目的を明確に伝えることにした
 - ワークを CB にフォーカスさせた
 - ワークを講義に対応させた（CB の構成要素）

まとめ

- ミニレクチャの設計と実施
 - 導入、展開、まとめ
- 主体的に学んでもらうための手法
 - 問いかけ、Think Pair Share
- 主体的に学んでもらうときに大事なこと（コツ）
 - 目的を明確にして、明確に伝える
 - 目的を意識して、ワークの対象を絞る
 - 目的と内容に対応付ける